

令和3年度 第1回 定例会 まとめ

部会	報告及び議題(概要)	意見交換	今後の方向性及び振り返り
精神	＊セルフヘルプ活動支援について ・今年度設置のピア部会への協力 ⇒昨年度研修講師の内布氏の来島予定に合わせて実施(10/1予定) ・島内の活動状況と情報共有 ・アルコールや引きこもりの問題がある人の家族会の要望や必要性について ⇒「精神保健福祉講座」として地域住民を対象に障がいへの理解を促すことを検討 ＊家族支援について ・動画視聴「ソーシャルワークの活用による子供の虐待防止」 ・家族への介入が必要だが困難なケース等について共有・検討 ＊事例検討 ・精神疾患がある児童について ・家族と世帯分離をする必要があるケース	『家族支援について』についてグループ協議 ＊それぞれの支援の中で家族に対して行う支援 家族に対してどんな支援を行っているか、どう行えば効果的なのかについて共有し、協議会としての家族支援のあり方について考える。 ①それぞれの仕事の中で、家族に実施している支援や実施できたら有効だと思うれる家族支援について意見交換し、共有する ②出た意見に順番を付け、各グループでより効果的に取り組む方法について協議 (各グループで共有した事例・意見)	
相談支援	＊令和3年度障害福祉サービス等報酬改定に関する説明会 実施 ＊家族支援について考える ＊計画書作成の工夫について ＊通所事業所による金銭管理支援について ⇒実施する際、利用計画の中に入れモニタリング時に本人・サービス管理責任者・相談支援専門員の間で共有する。 ＊ケース発表会(事例検討) ・余命宣告を受けた利用者への意思決定支援 ・ADL低下により高齢両親との在宅生活が困難になっているが、両親も本人も施設を受け入れられないときの支援	・母親が娘の統合失調症についての理解ができていない。障害への理解や本人の関りについて支援が必要。 ⇒週一回母親に来所してもらい、面談している。 同じような問題を共有できる人がいればいい。病状や特性などの理解や家族会への参加の機会が必要。 ・母がアルコール依存症、本人は発達障がいの二次障害として鬱があり、本人からの相談で関り始めた。 ⇒本人は通所事業所利用。様々な機関との連携は必要と考えている。 母親の生きがいの支援・家族や関係機関を含めた協議の場・AAや家族支援教室(アルコール依存)を地域に作る必要がある。 ・持病を持つ母親と二人暮らしのため、十分な介護が受けられていない状況での在宅生活。何度か担当者会議を開催し説得を試みるが、母に「息子の世話は生きがい」と言われ断られている ⇒利用できるサービスや相談機関は複数紹介している。 支援が必要と思われる家族については適切な支援に繋げる必要がある。 ケース会議などで保護者と子どもがうまく行くような方法を一緒に考える。(本人の特性に合わせた支援を提案する) ・服薬管理に関する家族への支援 ⇒カレンダーの利用や役割分担は行っている。 負担の軽減を図るため、家族・事業所・ヘルパー等で連携して支援できる体制を作る必要がある。 医師にも支援チームに入ってもらい、服薬の必要性について本人や家族に繰り返し説明してもらってはどうか。 ・母親も発達障がいの傾向があり、子どもとの関わりに家族支援が必要。 ⇒下の子もいるため、保育所の通園の援助を行っている。 母親のストレスを軽減するため、面談で話を聴いている。 ペアレントプログラムに案内し、言葉のかけ方などについて学んでもらっている。	
子ども	＊第1回子ども部会(5/7) ・医療的ケア児の円滑な保育所や幼稚園の利用について(奄美市健康増進課より) ・事業所の土日開所についての各市町村状況について ＊第1回北部地区子ども支援net ・研修「発達支援について」 鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 高橋 佳代氏 ・グループ協議 「奄美北部での障がい児やその家族を支える人たちの連携について」 ＊研修及び勉強会 ・第1回そだちサポートプロジェクト研修&交流会(6/11 オンライン形式 52名参加 鹿児島・奄美・喜界島・徳之島・与論島) ・そだちサポート勉強会 5/21、7/9実施	・母親も発達障がいの傾向があり、子どもとの関わりに家族支援が必要。 ⇒下の子もいるため、保育所の通園の援助を行っている。 母親のストレスを軽減するため、面談で話を聴いている。 ペアレントプログラムに案内し、言葉のかけ方などについて学んでもらっている。	※グループ協議について 各グループで共有した「家族支援」についての課題や現状・出された意見やアイデアを整理し、共通する課題等あれば各部会へのフィードバック、協議会としての有効な支援策を運営委員会を中心に検討していく。
就労支援	＊農福連携に関する協議(第1回部会前段に実施) ・現状報告 ・意見交換 ＊第1回就労支援部会 (4/23) ・卒業生の進路について(大島養護より) ・報酬改定について(行政より) ・協議 一般就労を継続するための支援について 一般就労の間の受け皿となる場について 報酬改定後のそれぞれの事業所のメニューの選択について ＊第1回農福連携推進検討会 (5/14) ・検討会の基本的な考え方について確認 ・協議体制・活動計画・就労事業所へのアンケート踏査について協議 ・情報交換(農業関連用語について)	・父親がアルコール依存。足の調子が悪いため息子に自分の世話をさせるので、子どもが学校を休むこともある。 ⇒父親の治療をさせるため保護課職員と連携をとり、父親を通院させている。 父親の精神面での支援のため、定期的に訪問し、様子を見ている。 父親に病気について理解してもらえよう、個別訪問を繰り返し信頼関係を作る必要がある。(家族の苦労、不安に寄り添う) 保護者に何らかの支援が必要な場合、積極的に介入、サポートするシステムの充実が必要(検査、家事サポート、教育相談サポートなど) 家族支援のプロチームが必要。関係者同士の連携。 学校への相談等に支援者も同行する。 ・施設入所者の長期化・高齢化・重度化による入浴の困難さなどから、家族が自宅での外泊をためらうことが出てきた。またコロナを理由に面会が遠のいてしまっている家族もある。 ⇒入浴方法や薬の塗布方法などを家族に教え、外泊が継続できるようにしている。 家族にもっと関りをもってもらったり交流できるようにするために、電話や手紙で連絡をとっている。熱心に関わってくれる家族もいるが、そうでないところにも継続して声をかけ続けるしかない。 対面できるような状況になったら、イベントなどに参加してもらう。 両親が高齢化している場合は兄弟に声をかける。	※振り返り ・部会の数も増え、報告についても内容が濃くその場で報告されてもスムーズに理解できない部分がある。 ⇒協議テーマに関係のある部会報告を重点に、他の部会は課題をのみ、又は資料を各自で読む形にする方法も検討していく。 ・各町村で開催する意味を再確認する ⇒構成員ではなくとも地域の福祉資源の機関に参加してもらい、開催地域の課題共有やネットワーク構築に資する場とする(以降の大和、住用でも同様)。
地域生活	＊第1回コア会 (5/20) ⇒昨年の振り返りとアンケート回答結果から、コア会とネットワーク会に分けることを決定。ネットワーク会での協議課題の検討。 ＊第2回ネットワーク会(6/24 オンライン方式) ・コア会の報告 ・協議テーマ 「住居を貸す側と借りの側へのアプローチ」 ⇒各々の事例を共有後、具体的にできそうなアプローチを出し合う ・一人暮らしのための奄美版ガイドブック作成について ＊サービス管理責任者交流会(入所・グループホーム)6/24 オンライン方式 ・新規事業所紹介 ・各施設のコロナ関連を含む近況 ・ワクチン接種について ・コロナ禍でのレクレーション等の工夫について ・サービス情報シートについて	・母・子それぞれに支援者がいて地域で支援しているケース ⇒それぞれの支援者が関係機関に連絡するなど情報共有をしている。お互いの信頼関係があり、世帯で支援しているからこそできている。 連携していく中で誰かまとめる人がいると助かる。 役割分担して、定期的に情報共有できるとよい。 ・就労の相談の際、親子で来所するが本人より家族の意向・熱意の方が先行している場合や、現状では一般就労につなぐのが難しいと思われるケース。家族も本人も障害や現状についての理解が十分でない。 ⇒職業訓練希望の場合は医師の許可をもらうようにと伝えている。 保護世帯の場合は保護課と連携をとることもある。 あまみ障害者就業・生活支援センターにつなぐこともある。 家族や本人が障害や現状を理解するための支援が必要。 就労A型に繋ぐことができれば、将来的には一般就労の可能性も出てくる。	
権利擁護	◎差別解消に関する取り組み ＊令和2年8月20日開催 ・名瀬運動公園プール・交通安全協会改修 ・JALグループのアクセシビリティへの取り組みについて ・障害手帳所持者のバス運賃割引について(島バス) ＊令和3年2月25日開催 ・名瀬運動公園プール環境整備について ・バリアフリー改正法について(大島支庁より) ・ユニバーサルツーリズムの取り組みについて(奄美市商工観光部細観光課) ・駐車場ブルーカラー化・障害者週間・出前授業について ・グループワークによる意見交換		